

山口県立看護学校あり方検討報告書

平成21年12月

山口県健康福祉部医務保険課

目 次

はじめに	1
第 1 看護教育を取り巻く現状	
1 看護職員の養成	1
2 看護職員志望生徒の進学状況	2
3 県内の看護職員養成施設	3
4 山口県看護職員需給見通し	5
5 看護職員の確保対策	6
第 2 県立看護学校の状況	
1 衛生看護学院	7
2 萩看護学校	10
第 3 今後の県立看護学校のあり方	
1 衛生看護学院	12
2 萩看護学校	15
3 県立病院の運営形態の見直しへの対応	17
おわりに	17

はじめに

近年、人口の減少傾向が続くとともに、少子高齢化が進展し、産業に従事する生産年齢人口の減少や人材の流動化への対応、人材の質の確保が求められている。

このような状況の中、県では、県立看護学校として衛生看護学院及び萩看護学校を設置して、本県の保健医療ニーズに応えるため、県内看護職員の養成・確保を進めてきたところである。

一方、山口県は行政改革推進プランにおいて、県の組織を、小さく効率的な行政体制に向けて整備することとし、民間と行政の役割分担を見直して民間との協働を進め、民間活力を活用した効率的で質の高い行政を実現することとしている。その具体的な取組として、組織と行政システムの改革を行い、スリムで効率的な組織を整備するため、人材養成機関である県立看護学校についても、時代の変化やニーズに柔軟に対応するため、養成課程等の見直しを進めることとしている。

本報告書は、県立看護学校である衛生看護学院及び萩看護学校の2校について、看護職員需給見通しを踏まえながら、看護職員志望生徒のニーズ、受験者・入学者等の状況や卒業後の進路、民間等の看護職員養成施設における養成状況等の様々な観点から、県立施設としての役割や必要性について検討を重ね、今後の県立看護学校のあり方としてとりまとめたものである。

第1 看護教育を取り巻く現状

1 看護職員の養成

(1) 医療ニーズに対応した看護職員の養成

医療技術の高度化、医療機関の機能分化の進展、平均在院日数の短縮化等により、安心・安全の医療、インフォームド・コンセントの理念に基づいた納得と信頼の医療等、患者本位の質の高い医療サービスの実現が求められている。

このような医療ニーズに対応するため、看護職員の役割は複雑・多様化し、その業務密度も高まってきていることから、高い資質と能力を備えた看護職員を養成する必要がある。

また、より高度な知識・技術を有し、水準の高い看護を提供する、専門性の高い看護職員の養成強化や普及促進も求められている。

(2) 看護職員養成施設による看護職員の養成

現在の看護職員養成課程には、看護師については高校卒業生を対象とした3年課程、准看護師免許を取得した者を対象とした2年課程があり、その教育施設は大学、短期大学(3年課程、2年課程)、看護師養成所(3年課程、2年課程)、高等学校専攻科(2年課程)、高等学校専攻科5年一貫教育校に分かれる。

また、保健師及び助産師については大学、短期大学専攻科、保健師養成所及び助

産師養成所で養成されている。

さらに、保健師と看護師又は助産師と看護師の国家試験受験資格を同時に取得できる統合カリキュラムによる教育も行われている。

准看護師については、准看護師養成所及び高等学校衛生看護科において養成されている。

このように多様な養成課程がある一方で、厚生労働省の統計調査結果によると、2008年の全国の合計特殊出生率は1.37(山口県 1.43)で少子化社会に向かっており、県内将来推計人口()においても、15～19歳人口は、今後も減少傾向が続くと予測されている。

こうしたことから、今後、看護職員養成施設の受験者数、入学者数は減少することが見込まれ、各施設では、学生の確保が困難になっていくものと予測される。

(H19.5 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」)

(3) 看護職員の養成に関する国の動向

「看護婦等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」(平成4年12月25日 文部省・厚生省・労働省告示第1号)では、学生の高学歴志向を踏まえて、看護師3年課程、2年課程の整備を図ること、資質の高い看護師の養成のための看護教育の充実、教員等指導者の養成を図る観点から、看護系大学の整備充実を推進する必要があること等が示されている。

また、厚生労働省が設置した「看護基礎教育のあり方に関する懇談会」は、看護基礎教育の充実の方向性を示し(平成20年7月31日)、これを受けて同省は「看護の質の向上と確保に関する検討会」等を設置して、看護基礎教育の充実に向けて、教育内容と方法等について検討を進めているところである。

一方、文部科学省では、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」において、大学での保健師、助産師、看護師教育の在り方や大学院での高度な人材養成について検討を進めている。

2 看護職員志望生徒の進学状況

(1) 高校卒業生の進学状況

文部科学省が毎年実施している学校基本調査の結果によると、近年、全国の高等学校卒業生の進学状況としては、大学等進学者の割合が上昇しており、平成19年からは50%を超え、平成21年は53.9%となっている。

その一方で、専修学校進学者の割合はわずかながら低下を続けており、平成21年は14.7%となっている。

本県においてもこれと同様の傾向が見られ、大学等進学者の割合は上昇を続けており、平成21年は44.0%となっているが、専修学校進学者の割合は低下傾向にあり、同年は16.1%となっている。

(2) 看護職員養成施設への進学状況

看護職員養成施設への進学状況においても、大学の看護学部の志願者数及び入学

者数については、近年、増加傾向にあるが、専修学校の看護学科の志願者数及び入学者数は減少傾向にあることから、看護職員志望生徒は高学歴志向にあると考えられる。

3 県内の看護職員養成施設

(1) 施設数

県内では、平成21年4月現在、県、町及び独立行政法人等が設置する公的な看護職員養成施設7校、学校法人が設置する施設8校、医師会が設置する施設8校の計23校において、看護職員の養成が行われている。

施設数は、下表のとおり平成16年4月と比べて増減はないが、大学が1校増加し、各種学校が1校減少している。

設置主体	学校区分	H16.4.1	H21.4.1
県	大学	1	0
	専修学校	2	2
	高等学校	1	1
町	専修学校	1	1
国立大学法人	大学	1	1
公立大学法人	大学	0	1
独立行政法人	専修学校	1	1
学校法人	大学	0	1
	専修学校	3	3
	高等学校	4	4
医師会	専修学校	4	4
	各種学校	5	4
計	大学	2	3
	専修学校	11	11
	各種学校	5	4
	高等学校	5	5
	計	23	23

圏域別設置状況では、次表のとおり県央部から山陽側に多くの施設が設置されており、山口・防府圏域に7校、宇部・小野田圏域には5校と施設数が多いが、長門圏域にはいずれの課程も設置されていない。

圏域別施設数

(単位：校)

区分	岩国	柳井	周南	山口・防府	宇部・小野田	下関	長門	萩	計
大学				1	2				3
専修学校	2	2	1	2	1	2		1	11
各種学校		1		1	1			1	4
高等学校		1		3	1	1			6
計	2	4	1	7	5	3	0	2	24

(山口県鴻城高等学校は衛生看護科を山口市に、衛生看護専攻科を宇部市に設置していることから、施設数の計は24校となる。)

(2) 課程数

県内の看護職員養成施設における養成課程数は、下表のとおり、平成21年4月現在、32課程があり、内訳では、看護師(2年課程)が9課程と最も多く、准看護師養成所の7課程、看護師(3年課程)の5課程と続き、最も少ないのは保健師課程及び助産師課程のそれぞれ1課程である。

また、平成21年4月の課程数の合計は、平成16年4月に比べて2課程減少しており、内訳では、保健師・看護師の課程が1課程増加し、看護師2年課程が2課程、准看護師養成所が1課程、それぞれ減少している。

課程数比較

(単位：課程)

区 分	H16.4.1	H21.4.1
保健師・助産師・看護師(大学)	2	2
保健師・看護師(大学・統合カリキュラム校)	1	2
保健師	1	1
助産師	1	1
看護師(3年課程)	5	5
看護師(2年課程)	11	9
看護師(5年一貫)	2	2
准看護師養成所	8	7
高等学校衛生看護科	3	3
合 計	34	32

(3) 定員

県内の看護職員養成施設の1学年定員は、下表のとおり、平成21年4月現在、1,620人であり、内訳では、看護師養成所(2年課程)が575人と最も多く、准看護師養成所の290人、看護師養成所(3年課程)の225人と続き、最も少ないのは助産師養成所の20人である。

また、平成21年4月の1学年定員の合計は、平成16年4月と比べて20人増加しており、内訳では、大学が90人、統合カリキュラム校が20人、看護師養成所(3年課程)が20人それぞれ増加し、看護師養成所(2年課程)が90人、准看護師養成所が20人それぞれ減少している。

区 分	H16.4.1	H21.4.1
大学	1 2 0	2 1 0
統合カリキュラム校	4 0	6 0
保健師養成所	4 0	4 0
助産師養成所	2 0	2 0
看護師養成所(3年課程)	2 0 5	2 2 5
看護師養成所(2年課程)	6 6 5	5 7 5
高等学校専攻科5年一貫教育校	8 0	8 0
准看護師養成所	3 1 0	2 9 0
高等学校衛生看護科	1 2 0	1 2 0
合 計	1,6 0 0	1,6 2 0

(4) 開校等の予定

県内では、平成22年4月に専修学校3校で看護師養成所(3年課程)の開校又は看護学科の新設が予定されている。

また、大学1校で看護学科の新設を計画されており(時期は未定)、今後、県内の看護職員養成数は増加する見込みである。

開校又は学科開設の予定

時 期	区 分	学 校 名	学 科 名(養成内容)	学年定員
H22.4	開 校	ウエストシ`ャハ`ン看護専門学校	看護学科(3年課程)	40人
	学科開設	YIC看護福祉専門学校	〃	40人
	〃	下関看護リハビ`リテー`ション学校	〃	40人
未 定	学科開設	山口福祉文化大学	看護学科(保健師・助産師)	-

(H22の3校はいずれも看護師養成所の指定申請中であり、学校名は仮称である。)

4 山口県看護職員需給見通し

(1) 平成17年12月策定

平成17年12月に、国の「第六次看護職員需給見通し」の策定に併せて、「山口県看護職員需給見通し」を策定し、平成18年から平成22年までの県内の看護職員の需要と供給の見通しをとりまとめた。

山口県看護職員需給見通しでは、県内の看護職員の需要は、平成18年の19,895人から平成22年には20,326人に増加すると見込んでいる。また、供給は、平成18年の19,354人から平成22年には20,100人に増加すると見込んでいる。

この結果、山口県内の看護職員の需給状況は、平成18年から平成22年まで供給不足の状況が続くものの、その不足数は、平成18年の541人から平成22年には226人に減少すると見込んでいる。

山口県看護職員需給見通し (単位：人)

区 分	H18	H19	H20	H21	H22
需要数(a)	19,895	20,029	20,135	20,235	20,326
供給数(b)	19,354	19,592	19,800	19,974	20,100
差引(a-b)	541	437	335	261	226

(2) 平成20年12月試算

(1)のとおり山口県看護職員需給見通しを策定した後、平成18年4月の診療報酬改定により看護職員配置基準(7対1入院基本料)が新設され、看護師の需要が増大した。

一方、県内の看護職員養成施設においては、学科新設、定員増加により供給数が増加しており、今後さらに開校又は学科新設の計画がある。また、県では、看護職員確保対策の諸事業を実施し、一定の成果を上げているところである。

これらの状況変化を受けて、平成20年12月に医務保険課において、平成17年に策定した需給見通しの見直しを行い、平成21年から平成25年までの需給見通しを試算した。

それによると、県内の看護職員の需要は、平成21年の20,518人から平成25年には21,082人に増加すると見込んでいる。また、供給は、平成21年の20,102人から平成25年には20,997人に増加すると見込んでいる。

この結果、山口県内の看護職員の需給状況は、平成21年から平成25年まで供給不足の状況が続くものの、その不足数は、平成21年の416人から平成25年には85人に減少すると予測され、山口県内の看護職員の需給バランスは、今後、改善に向かうものと見込んでいる。

山口県看護職員需給見通し(H20.12試算) (単位：人)

区 分	H21	H22	H23	H24	H25
需要数(a)	20,518	20,659	20,799	20,940	21,082
供給数(b)	20,102	20,342	20,578	20,788	20,997
差引(a-b)	416	317	221	152	85

5 看護職員の確保対策

(1) 看護職員の養成

現在、県では、衛生看護学院(防府市)と萩看護学校(萩市)の2校の県立看護学校を設置し、保健師、助産師及び看護師(3年課程、2年課程)の養成を行っている。

また、民間の看護師養成所に対して、教員経費等運営費の補助を行っている。

(2) 看護職員確保対策関連事業

県の政策課題である「暮らしの安心・安全基盤の強化」への取組の一つとして、看護職員確保対策関連事業を実施しており、看護職員の県内定着対策、離職防止対策及び再就業支援対策を重点的に行い、看護職員の確保定着の促進を図っている。

看護職員確保対策関連事業

区 分	事 業
1 県内定着対策 ・ 県外養成所へのP R ・ 合同就職説明会 ・ 看護師等修学資金貸付 ・ 認定看護師養成支援	看護職員確保促進事業 " 看護師等修学資金貸与事業 看護職員資質向上推進事業
2 離職防止対策 ・ 中小病院の勤務環境等の支援 ・ 院内保育所の運営	看護職員確保促進事業 病院内保育所運営事業
3 再就業支援対策 ・ 看護職員再就業の強化	看護職員確保促進事業

第2 県立看護学校の状況

1 衛生看護学院

(1) 概要

設置

山口県立衛生看護学院等条例(昭和45年山口県条例第60号)に基づき、県内保健師、助産師及び看護師並びに養護教諭の養成を行う施設として設置された。

保健師助産師看護師法に基づく保健師、助産師、看護師の養成所であり、また、学校教育法に基づく専修学校である。

- ・ 所在地 防府市泉町21-1

沿革

昭和46年4月 山口県立公衆衛生看護学院(山口市)と山口県立高等看護学院(防府市)を統合し、保健婦・助産婦の養成課程を新設して、現在地に「山口県立衛生看護学院」として開設

昭和51年4月 専修学校となる

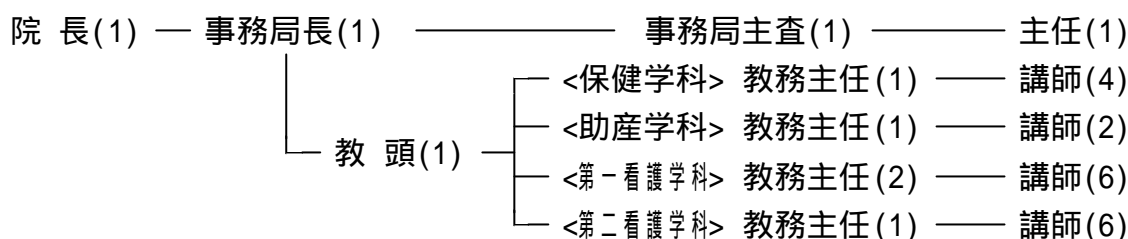
平成7年4月 学科名変更

学科の構成・定員等

学 科 名	学年定員	修業年限	養 成 内 容
保 健 学 科	40人	1年	保健師並びに養護教諭になるために必要な知識、技術
助 産 学 科	20人	1年	助産師になるために必要な知識、技術
第一看護学科	40人	3年	看護師になるために必要な知識、技術
第二看護学科	40人	2年	准看護師から看護師になるために必要な知識、技術

組織

職員数 28名 (H21.4.1現在)



施設

土地 14,691.27㎡ (県有)

建物 6,915.92㎡ (県有)

- ・昭和46年 本館棟、宿舎棟、食堂棟建築
- ・昭和47年 体育館建築
- ・昭和61年 宿舎棟増築
- ・平成10年 本館棟増築

施設の現況

各建物は建築後37年を経過しており、老朽化が進行している。

区分	建築年月	現況
本館棟	S46.3	建物内外の老朽化が進み、外壁の部分的剥離やクラックを生じている。 また、暖房用ボイラーの配管の老朽化が著しく、熱湯漏れ等が教室内などの複数箇所で発生している。 平成10年の増築部分は、使用上の支障はなし。
宿舎棟	S46.3	昭和46年建築の旧棟は老朽化が進み、外壁の部分的剥離やクラックを生じている。 さらに、炊事場、風呂場及び談話室は、設備が整っておらず、また、各居室も狭隘である。 昭和61年増築の新棟は、使用上の支障はなし。
食堂棟	S46.3	建物の老朽化が進行している他、調理場の作業設備も十分ではない。
体育館	S47.1	体育館としての利用には支障ないが、雨漏りの補修を要する箇所がある。

(2) 看護職員の養成状況

保健学科

ア 入学者等の状況

近年、応募者数・受験者数の減少が著しく、平成21年度入試(平成20年度実施、以下同様)は平成16年度入試に比べ、応募者数は6割以上、受験者数は7割以上の減少となっている。特に県外からの応募者数の減少が著しく、

近県の看護職員(保健師)養成施設の設置等の影響によるものと考えられる。

県内応募者数は平成17年度入試で減少した後、平成18、19年度入試は増加したが、平成20年度入試からは再び減少に転じた。これは県内大学の定員増又は学科新設等が影響しているものと考えられる。

平成16年度以降の入学者数219人について、県内出身者数103人(47.0%)に対し、県外出身者数は116人(53.0%)で、県外出身者が県内出身者を上回っている。

なお、平成21年度の入学者数は23人であり、定員を大きく下回っている。

イ 卒業生の状況

保健師の職員募集が少ないため、卒業生の約半数が看護師として就業している。平成16年以降の卒業生数226人について、保健師として就業した者は約半数の110人(48.7%)であり、このうち県内就業者数は55人(24.3%)である。

また、県外出身者のほとんどは、卒業後、それぞれの地元に戻って就業している状況であり、卒業生の県内就業率は40%を下回っている。

助産学科

ア 入学者等の状況

助産学科では、県外応募者数が県内応募者数を上回ることが多く、県内応募者数は25人から30人の間で推移しているが、県外応募者数は増減が大きい。

応募者数・受験者数は減少傾向にあったが、平成20年度入試から県外応募者数が増加したことにより、全体の応募者数、受験者数ともに増加している。

平成16年度以降の入学者数67人について、県内出身者数41人(61.2%)に対し、県外出身者数は26人(38.8%)で、県内出身者数が県外出身者数を上回っている。

なお、助産学科の学則上の定員は20人であるが、実習施設における分娩件数と実習基準との関係により、入学者数を12人に調整せざるを得ない現状である。

平成21年度の入学者数は11人であり、定員を下回っている。

イ 卒業生の状況

卒業生の多くは助産師として就業しており、平成16年以降の卒業生数66人のうち、助産師として就業した者は58人(87.9%)であり、このうち県内就業者数は35人(53.0%)である。

助産学科でも保健学科と同様、県外出身者のほとんどは、卒業後、それぞれの地元に戻って就業している状況であり、卒業生の県内就業率は60%を下回っている。

第一看護学科

ア 入学者等の状況

応募者数・受験者数は減少傾向にあり、県内の他の養成施設の定員増又は学

科新設が影響しているものと考えられる。

入学者の多くは県内出身者で、県外出身者は毎年数名である。

また、合格後に入学を辞退する者が多く、毎年20～30人が入学を辞退しており、辞退者は併願で合格した看護系大学等に進学したものと考えられる。

平成21年度の入学者数は31人であり、定員を大きく下回っている。

イ 卒業生の状況

平成16年以降の卒業生数227人のうち、県内に就業した者は131人(57.7%)であり、県外に就業した者は33人(14.5%)である。

平成18年卒業生までは県内就業率が50%以下であったが、学生に対する県内就業の促進に努めたこと等により、平成19年以降の卒業生から、県内就業率が向上してきている。

なお、平成16年以降52人(22.9%)が、卒業後に保健師養成所、助産師養成所、大学に進学している。

第二看護学科

ア 入学者等の状況

平成17年度入試では、県内の応募者数が大きく減少した。これは平成14年度に県立防府高等学校が5年一貫教育校に再編したため、それまで受験していた同校衛生看護科卒業生が受験しなくなったことが影響していると考えられる。

ここ数年、応募者数・受験者数は増減しており、安定していない。

平成21年度の入学者数は32人であり、定員を大きく下回っている。

イ 卒業生の状況

平成16年以降の卒業生数229人のうち、県内に就業した者は133人(58.1%)であり、県外に就業した者は61人(26.6%)である。第一看護学科に比べて、県外の医療機関に就業する者が多く、平成20年卒業生を除き、県内就業率は60%以下で推移している。

なお、平成16年以降27人(11.8%)が、卒業後に保健師養成所、助産師養成所、大学に進学している。

2 萩看護学校

(1) 概要

設置

山口県立衛生看護学院等条例(昭和45年山口県条例第60号)に基づき、北浦地域の看護師の育成・確保を進め、同地域の医療充実を図ることを主な目的として設置された。

保健師助産師看護師法に基づく看護師の養成所であり、また、学校教育法に基づく専修学校である。

・所在地 萩市堀内菊ヶ浜489-5

の就業者数は5人前後と低調である。

また、県外就業者数は83人(36.9%)で、県外出身者の多くが、卒業後、それぞれの地元に戻って就業する状況にある。

なお、平成16年度以降30人(13.3%)が、卒業後に保健師養成所、助産師養成所、大学に進学している。

第二看護学科

ア 入学者等の状況

応募者数・受験者数は減少傾向にあり、特に県内からの応募者数が減少している。

第二看護学科は、就労しながら修学できる昼間定時制ということもあり、いわゆる寄宿病院のある准看護師の応募が多く、県外からの応募者は少ない。

平成16年度以降の入学者数150人のうち、県内出身者数は141人(94.0%)と入学者の大部分を占めており、また、北浦地域からの入学者数は97人(64.7%)となっている。

イ 卒業生の状況

学生の多くは在学中、准看護師として北浦地域の寄宿病院に勤務しながら修学していることから、第一看護学科に比べて卒業後に同地域に就業する者は多く、平成16年以降の卒業生数139人のうち、77人(55.4%)が同地域に就業している。なお、県内就業者数は117人(84.2%)、県外就業者数は14人(10.1%)である。

卒業後に保健師養成所、助産師養成所、大学(編入)に進学する者は、毎年1名程度である。

第3 今後の県立看護学校のあり方

1 衛生看護学院

(1) あり方の検討

衛生看護学院の今後のあり方に関しては、各学科により養成内容が異なることから、学科別に、入学者等の動向及び卒業生の進路、他の看護職員養成施設における養成状況等を踏まえて、検討を行った。

(2) 学科別検討

保健学科

ア 保健師志望生徒は保健・看護系大学への進学を志望する傾向にあり、近年、保健学科では受験者数の減少が著しく、今後も増加に転じることは見込めない。

保健師志望生徒の進学先に関するニーズが大学志向に変化していること及び少子化が進行していることから、今後、保健学科の学生の質・量的な確保は、更に困難となると考えられる。

イ 県内に保健師の養成を行う大学及び統合カリキュラム校が設置され、また、

定員の増加が行われていることから、保健師の養成数は増加しているが、一方で保健師の就業状況は厳しく、保健師課程を卒業した者の多くが看護師として就業している状況にあり、今後もこの傾向は続くと思込まれる。

ウ 県内の他の保健師養成施設には定員割れとなっている施設もあり、また、県内大学に保健師と看護師を養成する看護学科が新設される計画もあるなど、今後、保健師の養成数に不足は生じないと考えられる。

エ 保健学科の入学者には県外出身者が多く、卒業後、それぞれの地元に戻って就業する傾向が強いこと等から、卒業生の県内就業率は、近年、40%を下回っている状況にある。

オ こうした状況から、保健学科は、地域保健活動の担い手としての県内保健師を養成・確保するという役割を終えており、今後、他の養成施設による保健師の養成により、県内保健師は十分確保できると考えられる。

【検討結果】

保健学科は、県立保健師養成施設として存続する必要性が低くなってきたと認められるため、廃止が相当である。

助産学科

ア 助産学科の入学者には県外出身者が多く、卒業後、それぞれの地元に戻って就業する傾向が強いこと等から、卒業生の県内就業率は60%を下回っている状況にある。

また、県内就業者数に対して、助産学科を運営する負担も大きい。

イ 県内では本学院助産学科の他に、大学2校で助産師の養成が行われている。

県内での助産師の養成状況

区 分	学年定員	履 修(期間)
衛生看護学院助産学科	12人	1年
山口県立大学看護栄養学部看護学科	()5人	3年生4月から
山口大学医学部保健学科	()8人	3年生後期から

(競争試験により選抜する)

ウ 各大学では、助産学実習を行う実習施設を確保することができれば、助産師養成数の増員は可能とのことである。

エ 県としては、助産師養成施設に在学する学生への修学資金や潜在助産師に対する再就業支援等の施策の充実を検討するなど、県内助産師の確保対策に取り組むべきである。

【検討結果】

助産学科は、県立助産師養成施設として存続する必要性が低くなってきたと認められるため、廃止が相当である。

なお、県内の助産師養成施設における助産師養成数の増員に協力していく。

第一看護学科

ア 看護師志望生徒は看護系大学への進学を志望する傾向にあり、近年、第一看護学科受験者数は減少傾向で、今後も増加に転じることは見込めない。

看護師志望生徒の進学先に関するニーズが大学志向に変化していること及び少子化が進行していることから、今後、第一看護学科学生の質・量的な確保は、更に困難になると考えられる。

イ 県内、特に県央部から山陽側には看護師養成施設(大学及び3年課程)が多く設置され、定員増などにより看護師の養成数も増加しているが、近年、定員割れとなっている施設もある。また、平成22年4月に看護師養成所(3年課程)の開校又は学科開設が3校で予定され、大学1校にも看護学科の開設計画がある(時期は未定)など、今後、他の養成施設による看護師の養成数は増加する状況にある。

ウ 厚生労働省において、今後の看護基礎教育の充実に関して、高度医療等に対応できる資質・能力の育成、社会の高学歴化の観点から、看護基礎教育の大学教育への移行等について検討が進められている。

エ こうした状況から、第一看護学科は、県立の看護師養成施設(3年課程)として県内看護師を養成・確保するという役割を終えており、県としては、今後は他の看護師養成施設による看護師の養成を支援し、また看護師の離職防止の支援、潜在看護師の再就職の促進等を行うことにより、県内看護師の確保を行うべきである。

【検討結果】

第一看護学科は、県立看護師養成施設(3年課程)として存続する必要性が低くなったと認められるため、廃止が相当である。

第二看護学科

ア 看護師養成施設(2年課程)の受験者数は減少傾向にあり、准看護師から看護師へのステップアップに係る養成のニーズは減少している。

イ 県内、特に山陽側に看護師養成施設(2年課程)が多く設置されているが、これら養成施設の受験者数は減少傾向にあり、定員割れとなっている施設もあるなど、他の養成施設による看護師(2年課程)の養成には余力がある。

ウ 県内准看護師養成施設による准看護師の養成数は減少傾向にあり、今後、同養成数が増加に転じることは見込めない。

エ 第二看護学科は、卒業生の県内就業率が60%を下回っているなど、県立の看護師養成施設(2年課程)として県内看護師(准看護師)を養成・確保するという役割を終えており、県としては、今後は他の養成施設による看護師の養成を支援し、また看護師の離職防止、再就職の促進等を行うことにより、県内看護師の確保を行うべきである。

【検討結果】

第二看護学科は、県立看護師養成施設(2年課程)として存続する必要性が低くなったと認められるため、廃止が相当である。

(3) 衛生看護学院の廃止

以上の検討の結果、衛生看護学院は、県立施設として存続する必要性は低くなっていることから、廃止する。

(4) 今後の予定

各学科の閉科及び学院の廃止

平成22年度入学生を最終学年とし、各学科をその学年進行により順次閉科した後、学院は平成24年度末をもって廃止する。

各学科の予定

学 科 名	H 2 2	H 2 3	H 2 4
保 健 学 科	→		
助 産 学 科	→		
第一看護学科			→
第二看護学科		→	

寄宿舍の取扱い

寄宿舍には、定員150名に対して63名が入居している(H21.11.1現在)が、平成22年度末に、各学科の卒業生が相当数退居する見込みである。

このため、寄宿舍の取扱いについては、その後の入居状況、施設の管理・運営面等を踏まえて対応する。

2 萩看護学校

(1) あり方の検討

萩看護学校の位置付け

萩看護学校は、北浦地域の看護師不足に対応するため、地元萩市や関係医師会等の協力を得て、同地域の看護師の養成・確保を主な目的として設置されたものである。

北浦地域には看護職員養成施設として、萩看護学校と萩准看護学院の2校が設置されているが、同地域の医療機関における看護職員不足に対応するため、2校による看護職員の養成が、今後も必要とされている。

また、萩看護学校は、萩准看護学院からの進学先にもなることで、看護師の地元定着につながると考えられる。

第一看護学科

看護師志望生徒は看護系大学への進学を志望する傾向にあり、また、少子化も

進んでいることから、第一看護学科学生の質・量的な確保は、今後、更に困難になると考えられる。

第一看護学科卒業生の北浦地域への就業者数は多くはなく、同地域の看護師確保という設置趣旨を十分には満たしていない。

第二看護学科

県内の看護師養成施設(2年課程)の受験者数や准看護師養成施設による准看護師の養成数がいずれも減少傾向にあることや、少子化が進行していることから、第二看護学科学生の質・量的な確保は、今後、更に困難になると考えられる。

第二看護学科卒業生の約4割が北浦地域へ就業しており、第一看護学科に比べると同地域への就業者数は多い。

(2) 萩看護学校の存続

以上の点を踏まえて検討した結果、萩看護学校は存続し、北浦地域の看護師の養成・確保に努めることとする。

(3) 留意事項

今後の萩看護学校の管理・運営に当たっては、次の点に十分留意する。

学生の確保

第一看護学科、第二看護学科ともに応募者数・受験者数は減少傾向にあるため、少子化の進展及び看護師志望生徒の高学歴志向を踏まえて、学生の質・量的な確保に一層努める必要がある。

今後は、高等学校や医療機関等への訪問の強化、各種広報手段の利用拡大、体験入学や学校見学会の内容の充実、ホームページ掲載内容の充実等を行い、看護師志望生徒等に対する各学科のPRを積極的に行う。

北浦地域への就業の促進

北浦地域の看護師募集等に関する情報を適切に収集・分析し、学生の進路指導において、十分な情報提供及び相談等を行い、同地域の医療機関への就業促進を図る。

特に第一看護学科については、卒業後、北浦地域の医療機関に就業する者が毎年数名であることから、その増加に向けて、学生に対する進路指導を充実させる。

教育内容の向上

看護基礎教育においては臨地実習が重視されており、病院・施設等の実習の充実が不可欠である。

このため、実習先の看護基礎教育に対する理解を深めるとともに、実習先との連携を密にして、教育指導体制の強化を図る。

教員の資質向上

学生にとって魅力ある看護師養成施設であるためには、教育力に優れた教員の確保や教員の資質向上に対する取組が必要である。

このため、看護教員養成講習等への計画的な派遣、校内研修の実施等により教員の教育力の強化、資質の向上に一層努める。

学校施設の維持管理

海浜背後地に立地するため、建物・設備等の随所に錆の被害を生じていることから、計画的な補修等を行い、建物・設備の適切な維持管理を行う。

また、教育施設・設備等は、教育内容の充実に不可欠であるとともに、看護師志望生徒等の入学先検討の要因にもなることから、カリキュラムに応じた適切な整備を行い、教育環境の充実を図る。

学生生活の充実等

学生生活を充実・向上させ、また、学生が豊かな人間性と幅広い見識を持つよう、学校行事やクラブ活動の活性化を図るとともに、公開講座等の各種行事を通じて地域社会や関係団体との交流・連携を促進することにより、萩看護学校のさらなる発展につなげる。

(4) 今後の対応

北浦地域における民間の看護師養成施設等の開設状況、看護師の養成状況等に十分留意し、同地域の看護師確保・定着等の状況を踏まえて、萩看護学校のあり方を考える。

3 県立病院の運営形態の見直しへの対応

県立病院は、平成23年4月を目途に地方独立行政法人に移行する方向で、具体的な検討・準備が進んでいるところである。

県立看護学校は、県立病院との人事交流により、ほとんどの教員を配置していること、県立病院職員を講師として派遣していること、病院実習を県立病院で行っていることなど、学校運営に関して県立病院と深い関わりを持っている。

このため、県立病院の運営形態の見直しに際しても、県立看護学校において、教員の確保、講義や実習の実施等に支障が生じないよう努め、医療技術の進歩に応じた実践的な教育水準の維持・充実を図る必要がある。

おわりに

衛生看護学院は昭和46年の開設以来、本県の保健医療ニーズに応えるため、多くの看護職員を養成し、県内医療機関・福祉施設等に送り出してきたところである。

今回の見直しにより同学院は廃止するが、県としては、他の看護職員養成所において、

学生が看護の基礎知識と技術を確実に習得し、卒業後、看護の専門職として医療・福祉等の現場で活躍することができるよう、看護職員の養成を支援する必要がある。

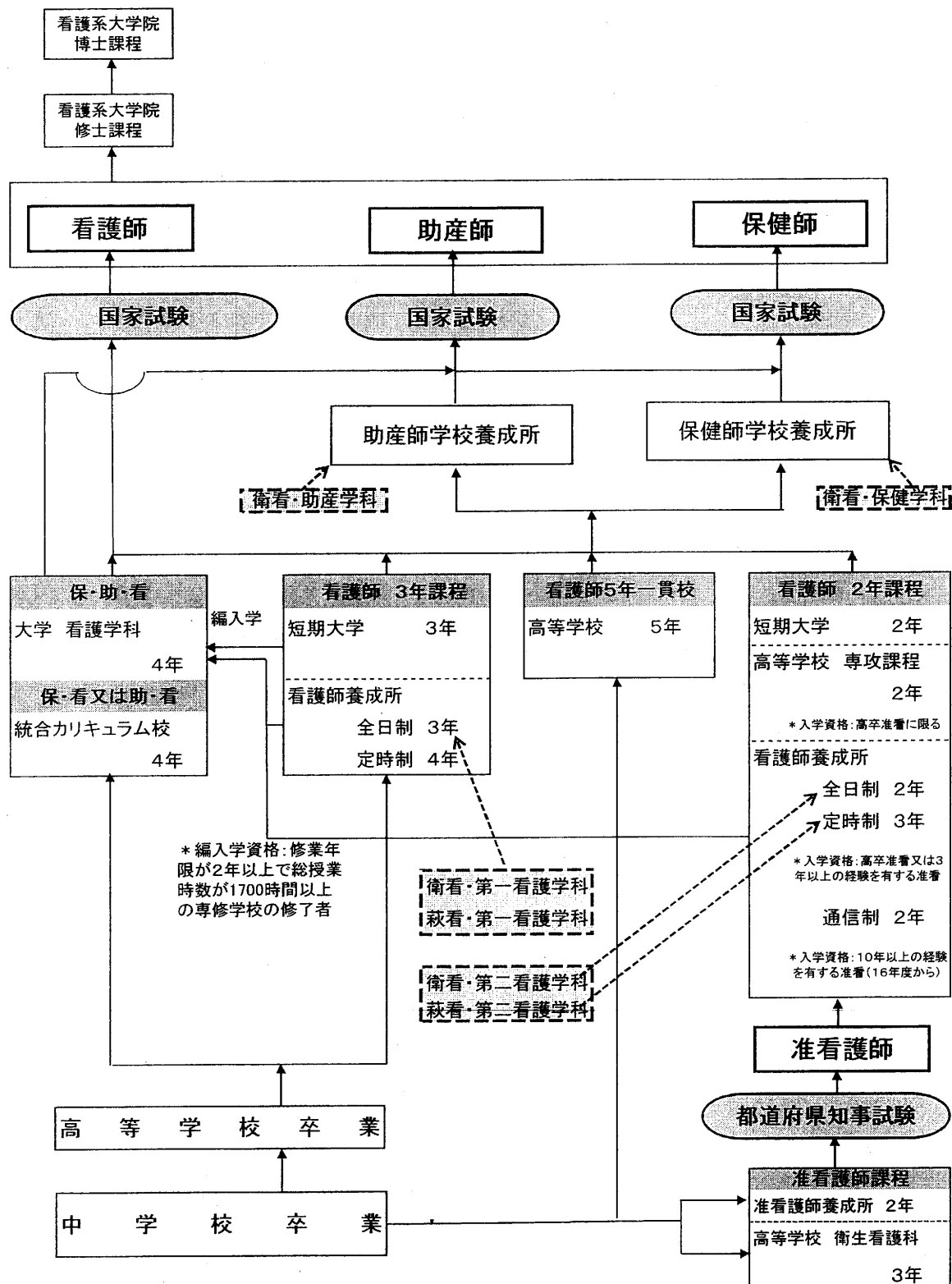
一方、萩看護学校においては、北浦地域の看護師の養成・確保に向けて、様々な看護ニーズに対応できる看護師を輩出するとともに同地域への定着にも寄与するよう、一層努める必要がある。

今後とも、県民に、質の高い医療を提供していくため、医療制度改革などの国の動向に的確に対応しながら、県や市町、看護職員養成施設、医療機関や関係団体が相互に連携して、看護職員の養成、離職防止及び再就業の支援等の取組を充実させ、看護職員の確保対策を総合的に推進していく必要がある。

参 考 資 料

1	看護職の資格取得までのコース	1
2	山口県内将来推計人口	2
3	高校卒業者の進学状況等	3
4	県内看護職員養成施設一覧等	5
5	看護職員需給見通し	8
6	衛生看護学院入学者・卒業生の状況	10
7	萩看護学校入学者・卒業生の状況	12

看護職の資格取得までのコース

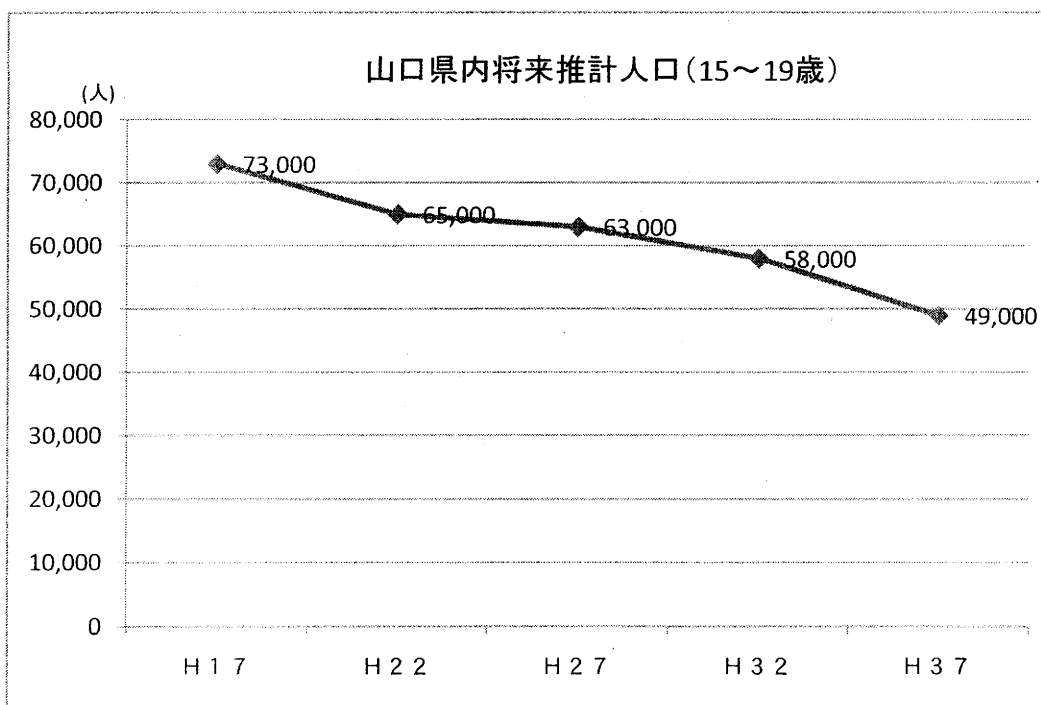


●山口県内将来推計人口

(単位:人)

区分	H17	H22	H27	H32	H37
15～19	73,000	65,000	63,000	58,000	49,000
20～24	72,000	64,000	59,000	57,000	53,000
25～29	81,000	72,000	64,000	59,000	57,000
30～34	97,000	80,000	71,000	64,000	59,000
35～39	84,000	96,000	80,000	70,000	63,000
40～44	81,000	83,000	95,000	79,000	70,000
45～49	88,000	80,000	82,000	94,000	78,000
50～54	107,000	87,000	79,000	81,000	93,000
55～59	131,000	105,000	85,000	77,000	80,000
60～64	108,000	128,000	102,000	83,000	76,000
計	922,000	860,000	780,000	722,000	678,000

(「日本の都道府県別将来推計人口」H19.5推計 国立社会保障・人口問題研究所)



●高校卒業者の進学状況

(単位:%)

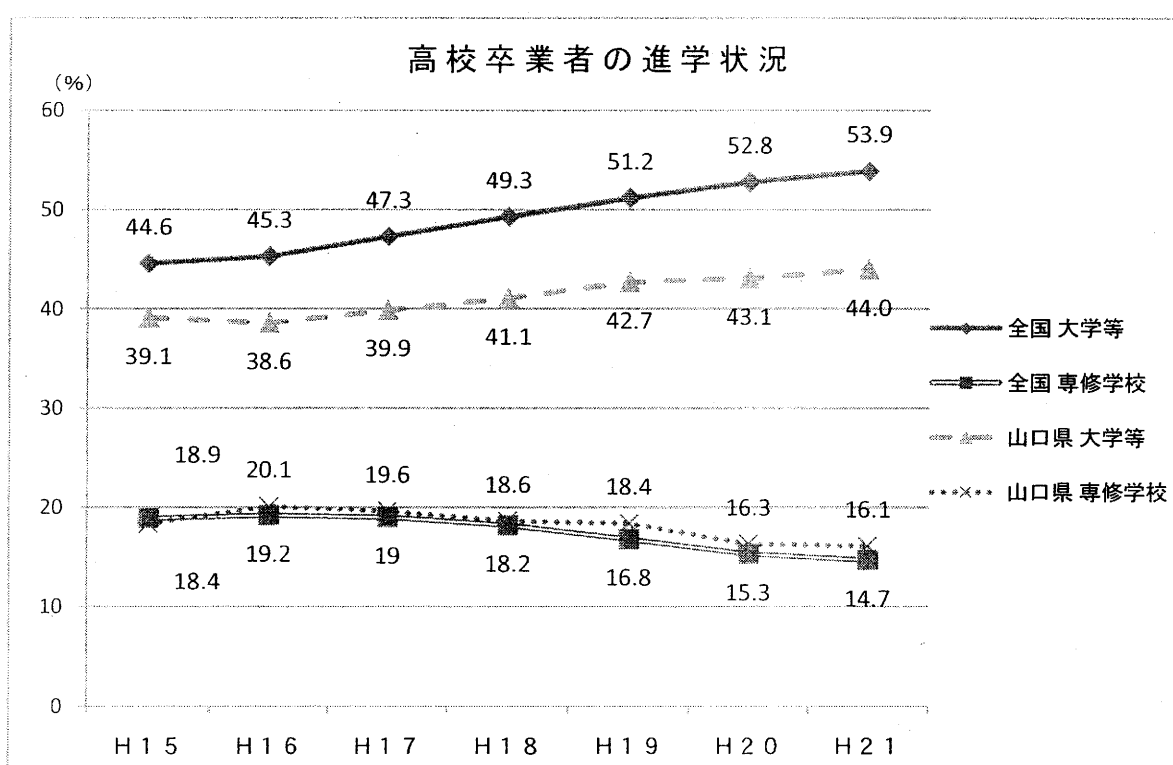
区 分	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	
全 国	大学等	44.6	45.3	47.3	49.3	51.2	52.8	53.9
	専修学校	18.9	19.2	19	18.2	16.8	15.3	14.7
山口県	大学等	39.1	38.6	39.9	41.1	42.7	43.1	44.0
	専修学校	18.4	20.1	19.6	18.6	18.4	16.3	16.1

※「大学等」:大学の学部・通信教育部・別科,短期大学の本科・通信教育部・別科,
高等学校等への専攻科への進学者

※「専修学校」:専門課程の専修学校

※H21は速報値

[文部科学省:学校基本調査]



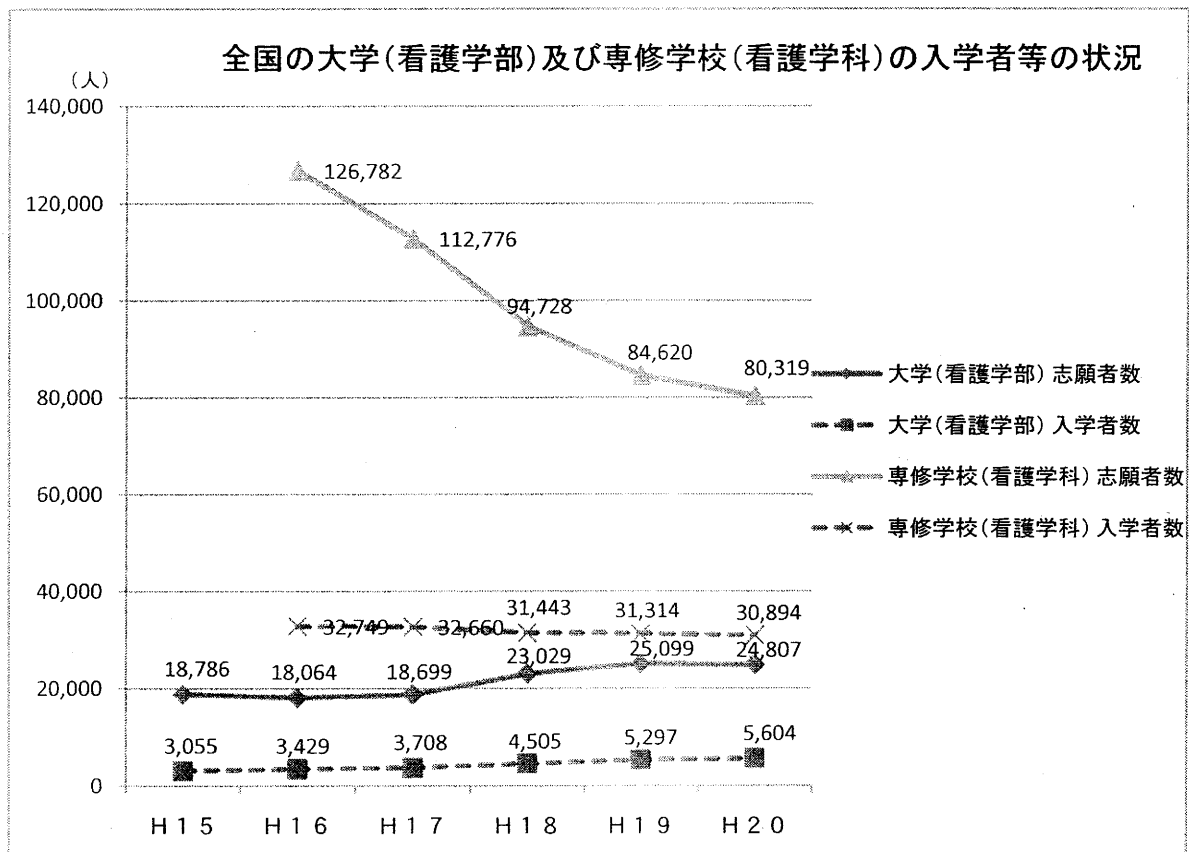
●全国の大学(看護学部)及び専修学校(看護学科)の入学者等の状況

(単位:人)

区 分		H15	H16	H17	H18	H19	H20
大学(看護学部)	志願者数	18,786	18,064	18,699	23,029	25,099	24,807
	入学者数	3,055	3,429	3,708	4,505	5,297	5,604
専修学校(看護学科)	志願者数		126,782	112,776	94,728	84,620	80,319
	入学者数		32,749	32,660	31,443	31,314	30,894

※H15…専修学校の学科別データなし。

(文部科学省:学校基本調査)



県内看護職員養成施設一覧

●学校区分別

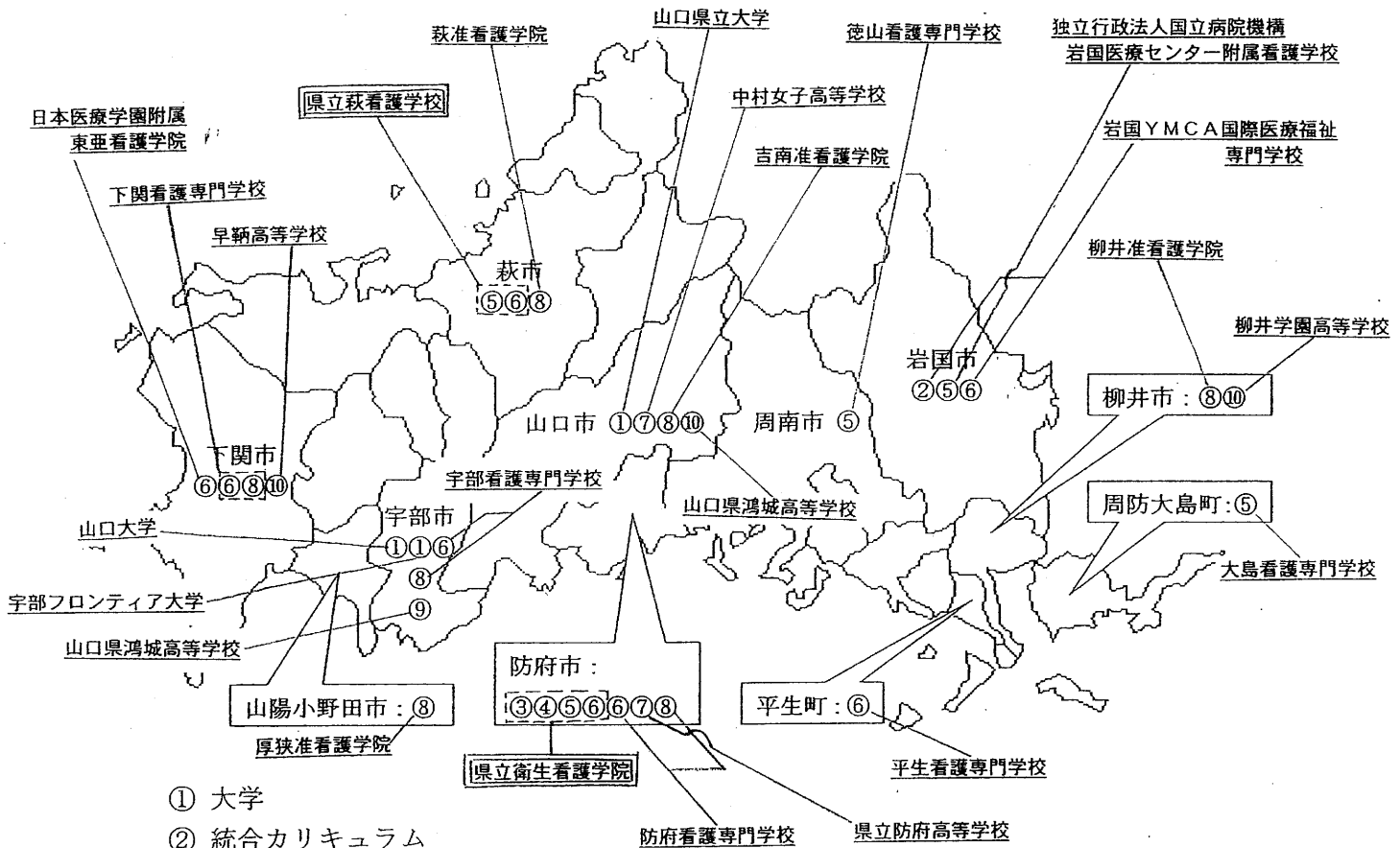
No.	区分	施設名	員数	保健師	助産師	看護師	看護師3	看護師2	看護師5	准看	准看(備前)
1	大 学	山口大学(医学部保健学科)	80	○	○	○					
2		山口県立大学(看護栄養学部看護学科)	50	○	○	○					
3		宇部フロンティア大学(人間健康学部看護学科)	80	○		○					
4	専 修 学 校 (11)	県立衛生看護学院(保健学科)	40	○							
		(助産学科)	20		○						
		(第一看護学科)	40			○					
		(第二看護学科)	40				○				
5		県立萩看護学校(第一看護学科)	40				○				
		(第二看護学科)	25					○			
6		大島看護専門学校	35				○				
7		岩国医療センター附属看護学校	40				○				
8		岩国YMCA国際医療福祉専門学校(保健看護学科)	60	○		○					
		(看護学科)	40					○			
9		平生学園平生看護専門学校	40					○			
10		日本医療学園附属東亜看護学院(通信制)	250					○			
11		徳山看護専門学校(医療専門課程看護科)	70				○				
12		防府看護専門学校(医療専門課程看護科)	40					○			
		(医療高等課程准看護科)	50						○		
13		宇部看護専門学校(看護科)	50							○	
		(准看護科)	50								○
14		下関看護専門学校(専門課程看護師科)	50					○			
		(高等課程准看護師科)	100							○	
15	各 種 学 校 (4)	柳井准看護学院	20							○	
16		吉南准看護学院	20							○	
17		厚狭准看護学院	20							○	
18		萩准看護学院	30							○	
19	高 等 学 校 (5)	県立防府高等学校(看護衛生科・衛生看護専攻科)	40						○		
20		柳井学園高等学校(衛生看護科)	40								○
21		中村女子高等学校(看護科・高等看護専攻科)	40						○		
22		山口県鴻城高等学校(衛生看護専攻科)	40						○		
		(衛生看護科)	40								○
23		早鞆高等学校(衛生看護科)	40								○

県内看護職員養成施設一覽

●設置主体別

No.	設置主体	施設名	員数	保健師	助産師	看護師	看護師3	看護師2	看護師5	准看	准看(高)
1	国立大学法人	山口大学(医学部保健学科)	80	○	○	○					
2	県	県立衛生看護学院(保健学科)	40	○							
		(助産学科)	12		○						
		(第一看護学科)	40				○				
		(第二看護学科)	20					○			
3		県立萩看護学校(第一看護学科)	40				○				
4		(第二看護学科)	25					○			
5	市	県立防府高等学校(看護衛生科・衛生看護専攻科)	40						○		
6	町	大島看護専門学校	35				○				
7	独立行政法人	岩国医療センター附属看護学校	40			○	○				
8	地方独立行政法人	山口県立大学(看護栄養学部看護学科)	50	○	○	○					
9	学校法人	岩国Y.M.C.A.国際医療福祉専門学校(保健看護学科)	60	○		○					
10	(8)	(看護学科)	40					○			
11		宇部フロンティア大学(人間健康学部看護学科)	80	○		○					
12		柳井学園高等学校(衛生看護科)	40								○
13		平生学園平生看護専門学校	40					○			
14		山口県鴻城高等学校(衛生看護専攻科)	40					○			
15		(衛生看護科)	40								○
16		中村女子高等学校(看護科・高等看護専攻科)	40						○		
17		日本医療学園附属東亜看護学院(通信制)	250					○			
18		早稲高等学校(衛生看護科)	40								○
19	医師会	徳山看護専門学校(医療専門課程看護科)	70				○				
20	(8)	防府看護専門学校(医療専門課程看護科)	40					○			
21		(医療高等課程准看護科)	50								○
22		宇部看護専門学校(看護科)	50					○			
23		(准看護科)	50								○
24		下関看護専門学校(専門課程看護師科)	50					○			
25		(高等課程准看護師科)	100								○
26		柳井准看護学院	20								○
27		吉南准看護学院	20								○
28		厚狭准看護学院	20								○
29		萩准看護学院	30								○

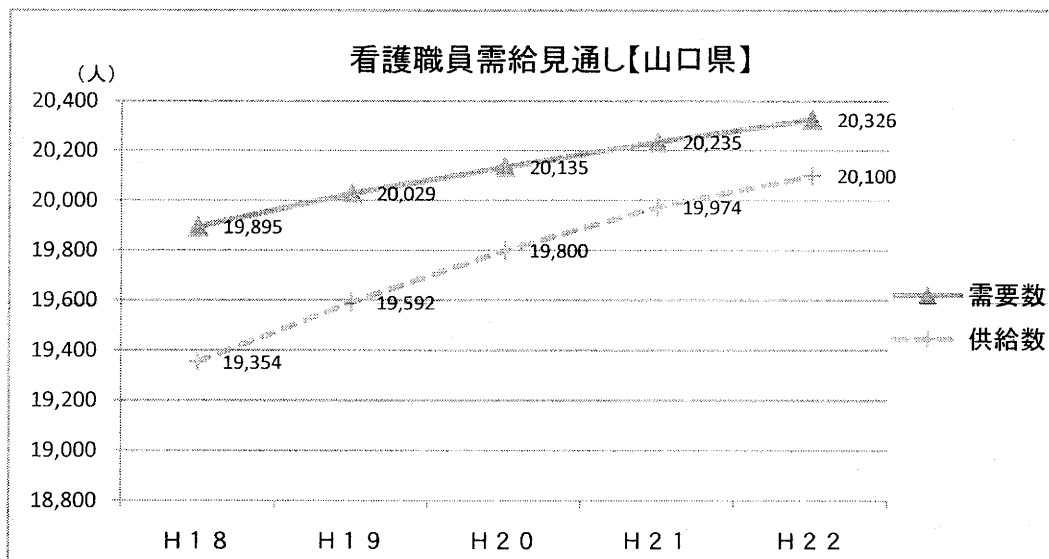
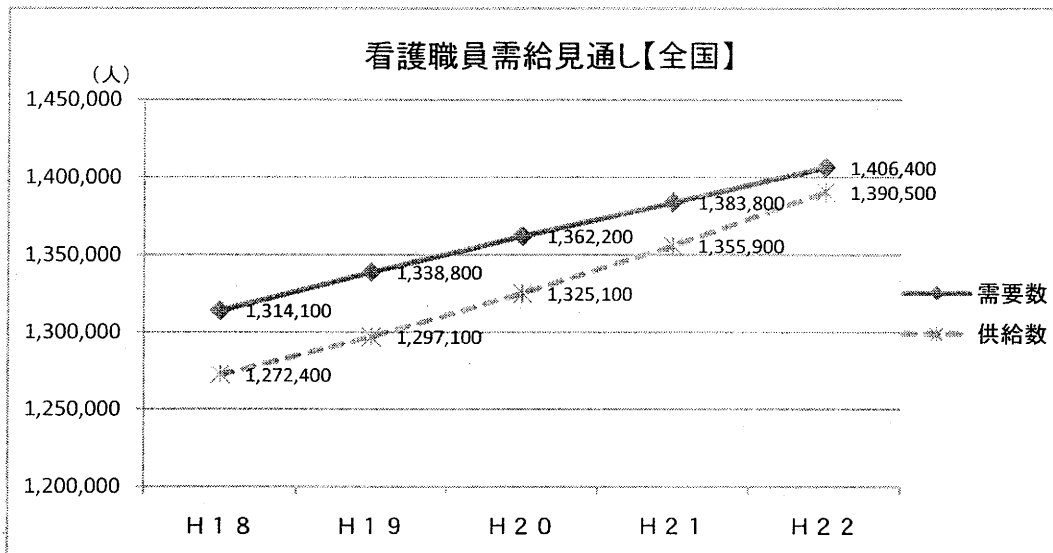
県内保健師・助産師・看護師・准看護師学校養成施設所在図



●看護職員需給見通し(H17.12)

(単位:人、%)

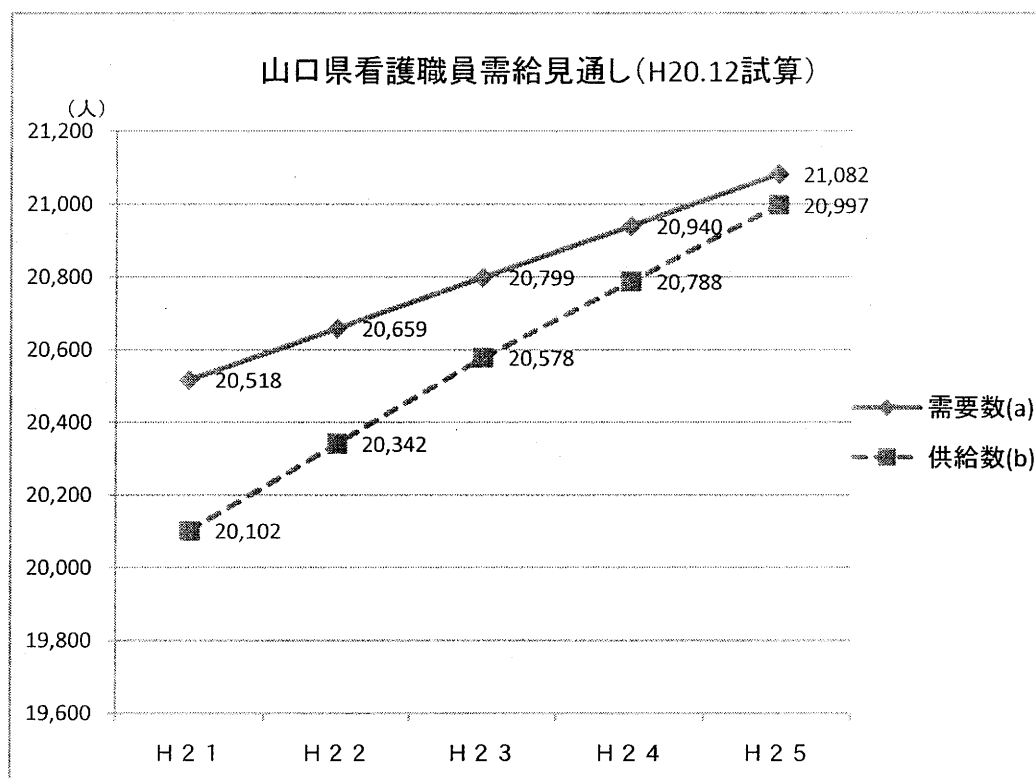
区 分	H18	H19	H20	H21	H22	
需要数(a)	全国	1,314,100	1,338,800	1,362,200	1,383,800	1,406,400
	山口県	19,895	20,029	20,135	20,235	20,326
供給数(b)	全国	1,272,400	1,297,100	1,325,100	1,355,900	1,390,500
	山口県	19,354	19,592	19,800	19,974	20,100
b/a*100(%)	全国	96.8	96.9	97.3	98.0	98.9
	山口県	97.3	97.8	98.3	98.7	98.9
a-b	全国	41,700	41,700	37,100	27,900	15,900
	山口県	541	437	335	261	226



●山口県看護職員需給見通し(H20.12試算)

(単位:人、%)

区 分	H21	H22	H23	H24	H25
需要数(a)	20,518	20,659	20,799	20,940	21,082
供給数(b)	20,102	20,342	20,578	20,788	20,997
b/a*100(%)	98.0	98.5	98.9	99.3	99.6
a-b	416	317	221	152	85



●衛生看護学院入学者の状況

(単位:人、倍、%)

学科名(定員)	区 分	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計	
保健 (40)	応募者	県内	44	25	34	37	30	19	189
		県外	127	61	52	78	58	40	416
		計	171	86	86	115	88	59	605
	受験者 合格者	計	160	77	79	103	80	42	541
		計	40	40	40	40	40	26	226
	入学者	県内	21	18	20	20	13	11	103
		県外	15	22	20	20	27	12	116
		計	36	40	40	40	40	23	219
		競争率	4.4	1.9	2.0	2.6	2.0	1.8	2.5
		充足率	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	57.5	91.3
助産 (20)	応募者	県内	30	30	26	25	27	28	166
		県外	54	30	37	26	54	74	275
		計	84	60	63	51	81	102	441
	受験者 合格者	計	81	53	56	49	75	92	406
		計	12	8	12	12	12	12	68
	入学者	県内	6	7	6	9	6	7	41
		県外	6	1	6	3	6	4	26
		計	12	8	12	12	12	11	67
		競争率	6.8	6.6	4.7	4.1	6.3	8.4	6.1
		充足率	60.0	40.0	60.0	60.0	60.0	55.0	55.8
第1看護 (40)	応募者	県内	167	151	144	111	113	132	818
		県外	35	25	16	25	14	13	128
		計	202	176	160	136	127	145	946
	受験者 合格者	計	192	170	153	130	120	141	906
		計	42	40	40	40	39	40	241
	入学者	県内	38	37	39	34	34	30	212
		県外	1	3	1	6	2	1	14
		計	39	40	40	40	36	31	226
		競争率	4.9	4.3	3.8	3.3	3.3	4.5	4.0
		充足率	97.5	100.0	100.0	100.0	90.0	77.5	94.2
第2看護 (40)	応募者	県内	80	47	48	61	46	56	338
		県外	18	8	10	16	12	9	73
		計	98	55	58	77	58	65	411
	受験者 合格者	計	96	54	58	76	55	61	400
		計	40	36	39	39	37	34	225
	入学者	県内	32	32	34	29	30	27	184
		県外	5	4	5	11	7	5	37
		計	37	36	39	40	37	32	221
		競争率	2.6	1.5	1.5	1.9	1.5	1.9	1.8
		充足率	92.5	90.0	97.5	100.0	92.5	80.0	92.1
計	応募者	県内	321	253	252	234	216	235	1,511
		県外	234	124	115	145	138	136	892
		計	555	377	367	379	354	371	2,403
	受験者 合格者	計	529	354	346	358	330	336	2,253
		計	134	124	131	131	128	112	760
	入学者	県内	97	94	99	92	83	75	540
		県外	27	30	32	40	42	22	193
		計	124	124	131	132	125	97	636

●衛生看護学院卒業生の状況

(単位:人、%)

学科名(定員)	区 分	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計	
保 健 (40)	卒 業 生 数	31	36	40	40	40	39	226	
	進路等	県内就業	8	17	12	13	15	15	80
		県外就業	21	18	25	24	18	20	126
		進 学	0	0	0	0	0	0	0
		その他	2	1	3	3	7	4	20
		計	31	36	40	40	40	39	226
	県内就業率	25.8	47.2	30.0	32.5	37.5	38.5	35.4	
助 産 (20)	卒 業 生 数	12	8	12	11	12	11	66	
	進路等	県内就業	7	4	11	6	7	4	39
		県外就業	5	4	0	4	5	6	24
		進 学	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	1	1	0	1	3
		計	12	8	12	11	12	11	66
	県内就業率	58.3	50	91.7	54.5	58.3	36.4	59.1	
第1看護 (40)	卒 業 生 数	42	33	43	38	37	34	227	
	進路等	県内就業	20	16	19	23	29	24	131
		県外就業	7	11	5	6	2	2	33
		進 学	14	4	14	9	4	7	52
		その他	1	2	5	0	2	1	11
		計	42	33	43	38	37	34	227
	県内就業率	47.6	48.5	44.2	60.5	78.4	70.6	57.7	
第2看護 (40)	卒 業 生 数	47	36	36	34	38	38	229	
	進路等	県内就業	27	19	21	20	27	19	133
		県外就業	15	10	6	12	6	12	61
		進 学	3	7	6	1	3	7	27
		その他	2	0	3	1	2	0	8
		計	47	36	36	34	38	38	229
	県内就業率	57.4	52.8	58.3	58.8	71.1	50.0	58.1	
計	卒 業 生 数	132	113	131	123	127	122	748	
	進路等	県内就業	62	56	63	62	78	62	383
		県外就業	48	43	36	46	31	40	244
		進 学	17	11	20	10	7	14	79
		その他	5	3	12	5	11	6	42
		計	132	113	131	123	127	122	748
	県内就業率	47.0	49.6	48.1	50.4	61.4	50.8	51.2	

●萩看護学校入学者の状況

(単位:人、倍、%)

学科名(定員)	区 分		H16	H17	H18	H19	H20	H21	計
第1看護 (40)	応募者	県内	110	112	113	95	87	86	603
		(北浦地域)	29	31	27	25	17	25	154
		県外	73	50	51	40	34	30	278
		計	183	162	164	135	121	116	881
	受験者 合格者	計	163	150	154	128	111	110	816
		計	53	51	53	53	50	49	309
	入学者	県内	29	30	28	32	33	34	186
		(北浦地域)	8	11	10	9	8	15	61
		県外	11	10	12	8	7	6	54
		計	40	40	40	40	40	40	240
		競争率	4.1	3.8	3.9	3.2	2.8	2.8	3.4
		充足率	100	100	100	100	100	100	100.0
	第2看護 (25)	応募者	県内	70	52	67	59	44	38
(北浦地域)			47	41	47	43	30	27	235
県外			2	7	1	4	4	2	20
計			72	59	68	63	48	40	350
受験者 合格者		計	69	57	66	60	47	40	339
		計	30	26	27	25	25	25	158
入学者		県内	24	21	24	24	24	24	141
		(北浦地域)	16	17	14	16	17	17	97
		県外	1	4	1	1	1	1	9
		計	25	25	25	25	25	25	150
		競争率	2.8	2.3	2.6	2.4	1.9	1.6	2.3
		充足率	100	100	100	100	100	100	100
計		応募者	県内	180	164	180	154	131	124
	(北浦地域)		76	72	74	68	47	52	389
	県外		75	57	52	44	38	32	298
	計		255	221	232	198	169	156	1,231
	受験者 合格者	計	232	207	220	188	158	150	1,155
		計	83	77	80	78	75	74	467
	入学者	県内	53	51	52	56	57	58	327
		(北浦地域)	24	28	24	25	25	32	158
		県外	12	14	13	9	8	7	63
		計	65	65	65	65	65	65	390

※(北浦地域)の欄は、県内応募者数、県内入学者、県内就業者数のうち、北浦地域の応募者数、入学者数、就業者数(再掲)

●萩看護学校卒業生の状況

(単位:人、倍、%)

学科名(定員)	区 分	H16	H17	H18	H19	H20	H21	計	
第1看護 (40)	卒業生数	38	40	35	39	37	36	225	
	進路等	県内就業	18	18	13	20	17	20	106
		(北浦地域)	5	3	1	5	6	2	22
		県外就業	16	17	12	11	16	11	83
		進 学	4	4	8	6	4	4	30
		その他	0	1	2	2	0	1	6
		計	38	40	35	39	37	36	225
県内就業率	47.4	45.0	37.1	51.3	45.9	55.6	47.1		
第2看護 (25)	卒業生数	20	21	26	25	23	24	139	
	進路等	県内就業	16	17	23	21	20	20	117
		(北浦地域)	12	12	16	9	15	13	77
		県外就業	3	3	2	2	2	2	14
		進 学	1	1	0	1	1	1	5
		その他	0	0	1	1	0	1	3
		計	20	21	26	25	23	24	139
県内就業率	80.0	81.0	88.5	84.0	87.0	83.3	84.2		
計	卒業生数	58	61	61	64	60	60	364	
	進路等	県内就業	34	35	36	41	37	40	223
		(北浦地域)	17	15	17	14	21	15	99
		県外就業	19	20	14	13	18	13	97
		進 学	5	5	8	7	5	5	35
		その他	0	1	3	3	0	2	9
		計	58	61	61	64	60	60	364
県内就業率	58.6	57.4	59.0	64.1	61.7	66.7	61.3		

※(北浦地域)の欄は、県内応募者数、県内入学者、県内就業者数のうち、北浦地域の応募者数、入学者数、就業者数(再掲)